

第 47 回中国地区英語教育学会

研究発表会

日 時：平成 28 年 6 月 25 日（土）13:00～16:30

会 場：岡山大学教育学部
〒700-8530 岡山市北区津島中 3 丁目 1 番 1 号

大会実行委員長：小山 尚史

大会事務局長：竹野 純一郎

12:30～13:30 受付（教育学部本館 4 階）

11:00～12:30 理事会（教育学部本館 4 階 407 会議室）：理事のみ

13:00～13:30 総 会（教育学部本館 4 階 401 講義室）

13:40～16:30 自由研究発表（教育学部講義棟の 3 階と 4 階）

17:00～18:30 懇親会（生協ピーチユニオン 3 階 会費 2 千 5 百円）

【自由研究発表】 13:40～16:30

(紙幅の都合でこの表には メインタイトル だけを表示しています。発表者氏名と所属およびサブタイトルを含んだタイトルについては、次ページ以降を御覧ください)

	第1室 4階 5403 教室	第2室 4階 5404 教室	第3室 4階 5405 教室	第4室 4階 5407 教室	第5室 3階 5301 教室	第6室 3階 5303 教室
13:40 ～ 14:10		話す力を伸ばす指導とその効果	教科書テキストの難易度に対する学習者と教員の意識	第二言語習得に貢献するアクティブラーニングとは・・・		
14:15 ～ 14:45		英語で『できること』と『できないこと』	L2 ライティング指導における自動化されたフィードバックの役割	大学での英語学習に関する課外活動の立ち上げに関する実践報告		
14:50 ～ 15:20	英語教育における楽観主義と自己決定動機づけの関係について	Foreign language speaking anxiety in the English-Medium Instruction (EMI) program in a Japanese university	個々の学習者タイプに応じたボトムアップ処理の効率化	声掛けメールによる WBT 自学自習の促進	定時制高校生の英数字、英単語、英文の直後筆記再生の比較	高等学校における認知言語学的視点を取り入れた英語前置詞の指導
15:25 ～ 15:55	英語中心の英語授業におけるパターン・プラクティスの効用	英語学習者の性格と外国語リスニング不安の関係性	高校生の「読む力」・「書く力」・「読むことから書くことへの転換力」の関連性	短期海外語学文化研修における「内省シート」の取り組みと成果	記述問題の間点に関する一考察	英語の現在完了形と身体の関係について
16:00 ～ 16:30	英語指導に関する理想自己とは	中学1年生を対象にした帯活動指導の効果について		大学入学前指導を通じたアクティブ・ラーニングの実践	英語教育の基盤としての感性についての理論的整理	形容詞と副詞の概念的定義の試み

第1室 (4階 5403教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
14:50 ～ 15:20	英語教育における楽観主義と自己決定動機づけの関係について 藤居 真路 (広島県立尾道商業高等学校)	楽観主義が人生の成功や幸福に繋がり、学業成績にもよい効果があることが主張され、クラス経営に活かす教員も出てきた。英語教育において、楽観主義と自己決定動機づけとの関係は解明されてきておらず、本研究では、高校生についてその関係を探求して、楽観主義が英語学習にどのような影響を持ち得るのか検討する。
15:25 ～ 15:55	英語中心の英語授業におけるパターン・プラクティスの効用－習熟度と動機づけの観点から－ 井上 聡 (環太平洋大学)	パターン・プラクティスは単調な反復演習であるがゆえ、記憶に残りにくい指導法と捉えられている。本研究では、3種の観点(授業への参加意欲、心理的欲求、動機づけ)から授業アンケートを分析し、習熟度別に指導法の特徴を調査するとともに、インプットへの気づきや取り込みを促進する効果について検証をおこなう。
16:00 ～ 16:30	英語指導に関する理想自己とは－英語教育に興味がある大学生の場合－ 宮迫 靖静 (福岡教育大学)	英語科教員志望の大学生が英語能力向上に余り熱心でない現状がある。このような学生は、L2理想自己(ideal L2 self, Dörnyei, 2005)と英語指導に関する理想自己(ideal ELT self, Miyasako, under review)にずれがあるのではないか。本発表では、英語教育に興味がある大学生のideal ELT selfに関して、混合研究法により探索的に調査する。

第2室 (4階 5404教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	話す力を伸ばす指導とその効果－口頭で写真や絵を説明する力を例として－ 久万 瑞帆 (広島大学大学院) 檜葉 みつ子・松浦 伸和 (広島大学大学院教育学研究科)	本研究は、口頭で写真や絵を説明する力を例に、中学1年生を対象として話す力の指導法の開発を行った実践研究である。「説明する力」を「必要な事柄を順序立てて詳しく話す力」と定義して、仮説を基に開発した指導法を用いて授業実践を行った。プレ・ポストテストの比較による検証の結果、順序良く話す力の育成に一定の効果があつた。
14:15 ～ 14:45	英語で『できること』と『できないこと』－テキストマイニングを用いた高校3年生のアンケート分析に焦点を当てて－ 吉住 晃 (倉敷市立倉敷翔南高等学校)	本研究は、「話すこと」を中心とした授業に対する日本の高校生の意識を分析することを通して、「話すこと」の指導の可能性と課題を明らかにすることを目的とした。調査の結果、発話の準備段階として位置付けた本文復元や自由英作の際に、表現したいことをよりまとまりのある形にしていく難しさを感じていることが分かった。
14:50 ～ 15:20	Foreign language speaking anxiety in the English-Medium Instruction (EMI) program in a Japanese university 鈴木 章子 (米子工業高等専門学校)	This research was conducted to investigate the anxiety level of Japanese students in an EMI (English-Medium Instruction) university program and to understand how the anxiety level changed over a period of time. The questionnaire survey was conducted in April and June, 2012, and 71 students from 5 different classes participated. The result showed that Japanese students generally lowered their anxiety level in one semester but highly anxious students remained anxious.

15:25 ～ 15:55	英語学習者の性格と外国語リスニング不安の関係性 山内 優佳 (広島文化学園大学)	本研究の目的は、日本人大学生英語学習者の特性的な性格と、外国語リスニング不安の関係性を明らかにすることである。調査材料には、短縮版 Big Five と改訂版外国語リスニング不安尺度が用いられた。調査の結果、Big Five が示す 5 つの特性のうち、特定のものと外国語リスニング不安の関連性が見出された。
16:00 ～ 16:30	中学 1 年生を対象にした帯活動指導の効果について 吉留 文男 (徳山工業高等専門学校) 野坂 良太 (周南市立住吉中学校)	本研究は、「聞くこと・話すこと」の領域において、基本的な表現の定着を図るために、帯活動に焦点を当てた指導の実践研究である。バックワード・デザイン(到達目標からの逆算)に基づき、3 年間を見通した指導内容を計画し、帯活動をベースに指導を行った。データを示しながら言語活動や質問に対する反応の変容について報告をする。

第 3 室 (4 階 5405 教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	教科書テキストの難易度に対する学習者と教員の意識 — 高校生のリーディングの課題を探る — 五井 千穂 (広島大学大学院)	教科書テキストの難易度に対する、学習者と教員の意識差を検討することを目的に、高校 2 年生約 80 名、英語科教員 10 名を対象に質問紙調査を行った。学習者—教員間、学習者間に見られる差に注目することで、高校生のリーディングにおける課題の一端がうかがえた。
14:15 ～ 14:45	L2 ライティング指導における自動化されたフィードバックの役割 岩中 貴裕 (山口学芸大学)	発表者は、L2 ライティング指導を効率的に行うためのツールとして、ウェブ上で提供される自動化されたフィードバックを利用している。本発表では発表者のこれまでの教育実践に基づき、L2 ライティング指導における教師の役割、そして自動化されたフィードバックの役割と限界について考察を加える。
14:50 ～ 15:20	個々の学習者タイプに応じたボトムアップ処理の効率化—音読と書き写しスパンの基礎的研究— 森 千鶴 (福岡教育大学)	Mori and Yamada (1988)において、L2 学習者の書き写しスパン(学習者が一瞥して書き写すことのできる英語の範囲)は、リーディング能力と有意な相関があることが明らかにされた。本研究では「書き写し」を一つの教授手段として捉え、4 タイプの学習者に、3 回繰り返して 82 語の英文の書き写しをさせ、スパンの推移を測定し、その効果を明らかにする。
15:25 ～ 15:55	高校生の「読む力」・「書く力」・「読むことから書くことへの転換力」の関連性—テキストの言語的難易度の違いから— 浅井 智雄 (広島県立廿日市西高等学校)	実践的英語力の育成に立脚した「読むこと」の指導では、読んで理解した事柄をアウトプットとして具体的な姿に転換させる必要がある。読むことを書くことへ繋げることも一つの方法である。本研究では、読んだ内容を英語で説明するという課題に対する学習者のパフォーマンスの分析を通して、読むことから書くことへの円滑な接続に必要なスキルトレーニングの具体像を追究する。

第 4 室 (4 階 5407 教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	第二言語習得に貢献するアクティブラーニングとは…—高校「外国語(英語)」指導の場合— 吉川 正美	本研究は、高大接続の観点から高校「英語／C 英語 I」でのアクティブラーニングの要件を明らかにすることを目的とする。第二言語習得理論に基づき、PCPP 教授法の枠組による学習者プロトコルや検証データを考察し、AL の実行可能性と課題を把握する。更に、意味づけのための評価となり得る一つのルーブリックを提案する。

14:15 ～ 14:45	大学での英語学習に関する課外活動の立ち上げに関する実践報告—ITC (Intensive Training Course of English) 合宿を通して— 関谷 弘毅 (広島女学院大学)	本稿は、歌やゲーム、スキット、スピーチなどの活動を含む 1 泊 2 日の生活をすべて英語のみで行う ITC 合宿の実践及び、その立ち上げの経緯についての報告である。活動内容の詳細、活動の成果、学生の実行組織の立ち上げ、実施方法、学生への指導について、写真、動画、事後アンケート結果を用いて報告する。
14:50 ～ 15:20	声掛けメールによる WBT 自学自習の促進 森田 光宏・榎田 一路 鬼田 崇作・阪上 辰也 草薙 邦広・吉川 りさ (広島大学外国語教育研究センター)	広島大学では、学生の英語力向上及び自学自習の習慣形成を促進する目的で、Web-Based Training(WBT)を中心に据えた授業を行っている。しかしながら、自学自習の習慣が身に付かない学生も多い。本研究では、WBT 自学自習の促進を目的とした「声掛けメール」を週 1 回配信したことにより、学生の自学自習がどのように変化したのかを報告する。
15:25 ～ 15:55	短期海外語学文化研修における「内省シート」の取組みと成果 森原 彩 (山口県立大学)	海外研修をどのように評価すべきなのか、評価方法が課題である。また、海外研修での学びや気づきを今後につなげ継続させるためには、学習者が自身の変化や成長過程を客観的にとらえる仕組みを構築することが重要であると考え。特に短期語学文化研修では語学力向上以外の成果の側面をとらえる必要性が高い。本発表では、短期海外語学文化研修において、上記の目標を達成するために用いた「内省シート」の取組みとその成果について報告する。
16:00 ～ 16:30	大学入学前指導を通じたアクティブ・ラーニングの実践 奥羽 充規 (四天王寺大学)	四天王寺大学の人文社会学部国際キャリア学科では、平成 27 年度より、AO 入試合格者および推薦入試合格者へ向けて大学入学前指導として、英語の無料レッスンを希望者に向けて実施した。これは SA としての先輩学生が次年度の後輩へと英語の指導を授業形式で行うという取り組みである。今回の発表としては、その取り組みを紹介するとともに、その中で得られた成果について発表することがその目的である。

第 5 室 (3 階 5301 教室)

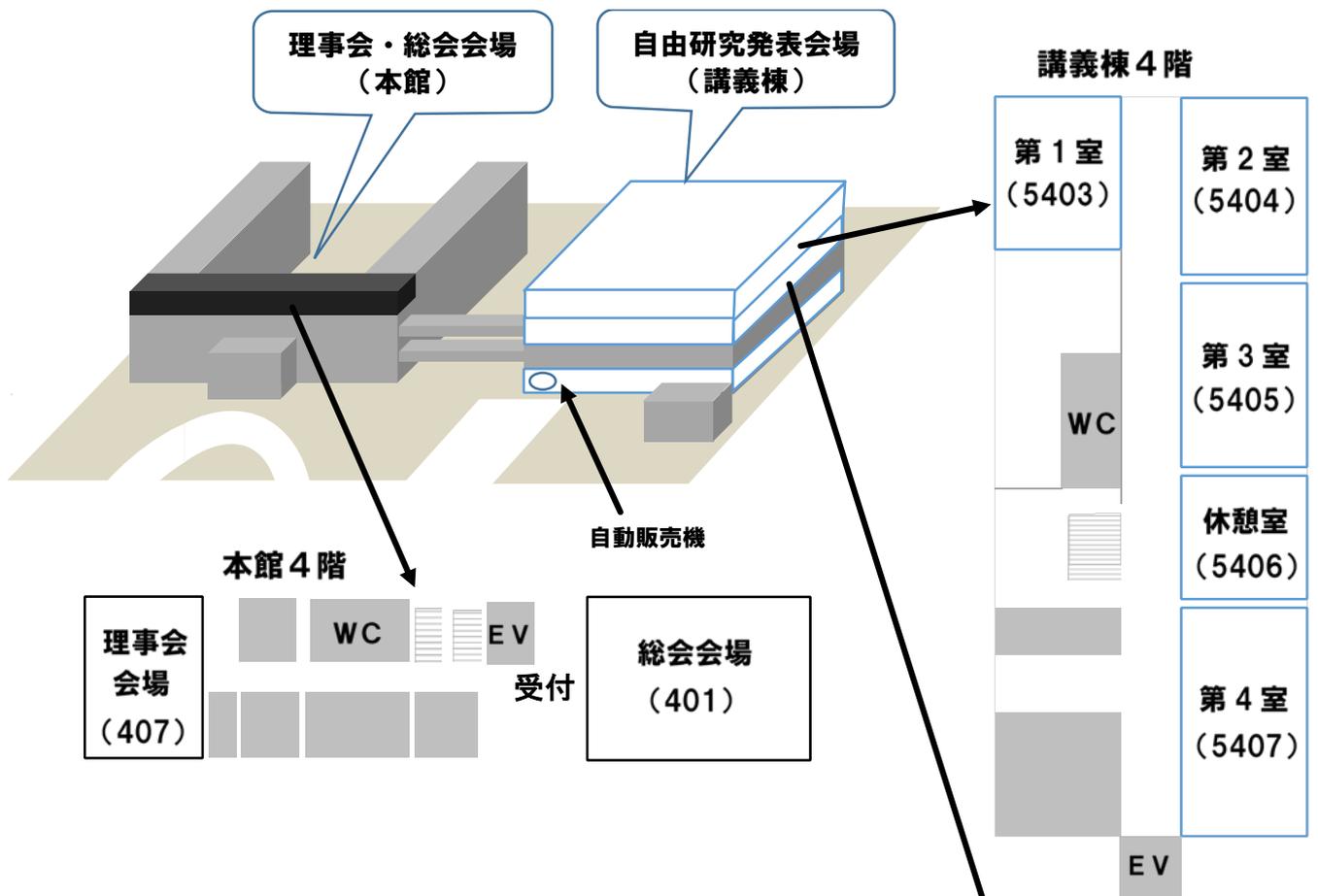
	発表タイトル・発表者	発表要旨
14:50 ～ 15:20	定時制高校生の英数字、英単語、英文の直後筆記再生の比較 ウィリアムズ 厚子 (広島大学大学院)	初級英語学習者とみなされる定時制高校生を対象に、英数字、英単語、英文による直後筆記再生課題の結果を分析し、それぞれの言語知識の水準が、短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリの働きによってどのように関連しているかを、異なる言語知識を持つ国立大学生と比較することにより明らかにする。
15:25 ～ 15:55	記述問題の中間点に関する一考察 中澤 敏浩 (広島県立海田高等学校)	2020 年度から導入予定の大学入学希望者学力評価テスト (新テスト) では、記述式の問題の導入が検討されている。一般的に中間点のつけ方に関しては、悩むことが多いのではないかと。新テストの記述問題は未だ不明な部分も多いが、高校では広く実施されている模試を参考に新しい記述問題の中間点について考察してみたい。
16:00 ～ 16:30	英語教育の基盤としての感性についての理論的整理 柳瀬 陽介 (広島大学大学院教育学研究科)	「感性」という用語は英語教育を語る際にもしばしば使われるが、その概念理解は十分ではない。本発表は、近代的思考の礎であるカント哲学と現代の神経科学や実践理論における “Sinnlichkeit”, “sensitivity/sensibility” 概念を分析し、感性についての理論的整理を行う。

第6室 (3階 5303教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
14:50 ～ 15:20	高等学校における認知言語学的視点を取り入れた英語前置詞の指導：大学進学希望者を対象として 和田 考平 (島根大学大学院)	本研究では、認知言語学的視点を取り入れた英語前置詞の指導を行なうことで生徒の理解が進む、ということを目指して授業を行なった。先行研究をもとに、類似する意味を持つ2つの前置詞 to と for を対比させて、上記の手法で説明した。結果として、「理解できた」という感想は多数得られたが、確認テストで正答を得られた割合は少なかった。
15:25 ～ 15:55	英語の現在完了形と身体の関係について—英語母語話者へのインタビューを通して— 石井 達也 (広島大学大学院)	今発表では、英語の現在完了形と身体の関係について、英語母語話者（オーストラリア人）2名のインタビューをもとに考察する。インタビューの内容は、事前に演じてもらった即興劇に関するものである。その内容について、(1) have の原義と現在完了形の関係、(2)対人関係による現在完了形の使用の有無を観点に考察する。
16:00 ～ 16:30	形容詞と副詞の概念的定義の試み—認知文法の視点から— 井口 智彰 (大島商船高等専門学校・ 広島大学大学院)	英語の形容詞と副詞は主として統語的・機能的な視点から記述・分析(Quirk et al. 1985)されてきた。それに対し、本発表では「品詞は概念的に定義可能」と主張する認知文法(Langacker 2008)の知見を踏まえ、形容詞・副詞の定義の再考を試みる。併せて、学習文法への効果的な応用についても検討する。

岡山大学津島キャンパスへのアクセス

<p>JR岡山駅からの経路 JR 津山線 法界院駅下車・・・所要時間約4分、その後、徒歩約10分</p> <p>岡電バス 岡山駅西口バスターミナル 22番乗り場から47系統岡山理科大学行き乗車、岡大西門下車・・・所要時間約7分、その後、徒歩約7分 (岡大東門へはキャンパス外周を廻った後に到着するため、岡大西門下車、徒歩をお勧めします。)</p> <p>タクシー 岡山駅西口広場 2F タクシー乗り場から・・・所要時間約10分</p> <p>岡山大学周辺からのタクシー 両備タクシーセンター 小型 086-262-3939 代表 086-264-1234</p>



● お知らせ

- ・昼食は、ピーチユニオン 2 階カフェテリアが営業しています (11:00~14:00)。
- ・自動販売機の位置は案内図をご覧ください。
- ・参加申込の締切は過ぎましたが、当日参加も受け付けております。なお、会員でない方は、当日会費 (一般 2,000 円, 学生 1,000 円) を受付でお支払いください。
- ・岡山大学はキャンパス内全面禁煙となっております。建物内だけでなく、屋外も含め学内は禁煙です。ご協力をよろしくお願いいたします。
- ・お車でお越しの方は、岡山大学津島キャンパスの駐車場がご利用になれますが、駐車場は有料となっておりますので、ご了承ください。(入構から 1 時間までは無料。1 時間以上 2 時間未満は 200 円, 以後 1 時間経過毎に 200 円を加算し、24 時間毎の最高限度額は 1,000 円です。)

○ 研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

- ・発表時間は 20 分, 質疑応答は 10 分とします。
- ・計時係を各室に配置し、20 分で 1 鈴, 30 分終了で 2 鈴鳴らします。
- ・司会者はありませんので、質疑応答は発表者で行ってください。
- ・発表資料は、30 部程度を発表の直前に配布してください。

